

鈴木 朝英 先生揮毫

事務局 札幌市西区西野  
7条2丁目1-2  
齋藤 彰方  
TEL 090-3773-8824

発行責任者  
会長 竹田 正直  
北大教育学部同窓会

## この一年の活動から 「応用問題」が 解決できる組織に



教育学研究院長・教育学院長・教育学部長  
附属子ども発達臨床研究センター長

### 青木 紀

この夏休み前だったか、

平成20年度の大学院入学案内・募集要項に、ご挨拶を兼ねて次のように書いた。

私のいまの気持ちの「高ぶりとは、このところ毎日メディアによって報じられる教育改革の動向とそれに

対する教育学研究や関係者の側の反応の鈍さ、弱さといつたことである。あるいはそれは、つい最近、仙台であった博士課程を持つ全

国教育学部長会議で私が目の当たりにした情景、「こ

んなことで日本の教育は丈夫か」といった雰囲気を背景にして、いつそう強くなつた私の焦燥感の裏返し

のようなものである。教育学部の教員がいまさらなん

でと思われるかもしれない

ともかくいま、社会は本

当に教育学関係者の活躍を望んでいると思う。OEC

が、いま確かに感じている。

だから、北大でこれから学ぼうとするみなさん、ある

いは北大の教育学院(大学院)に興味を持っているみ

なさん、あるいはすでにここで学んでいるみなさんに、あえて言いたいのである。

いまが教育学の出番である。

いいかえれば、ここで社会的に影響力を持つような研究が生まれなければ、教育学を名乗る大学院そのものの存在価値が問われ

\* H18年、H19年卒業・修了の方は特別に会費20000円とします。是非お誘い合わせの上参加してください！

\* 年会費未納の方は2000円をあわせて納入ください。

昨年好評でしたミニセミナー、今回は青木紀(アオキ オサム)先生を予定しております。乞うご期待！

連絡先(幹事) TEL 090-3773-8824 札幌市西区西野7条2丁目1-12

齋藤 彰(サイトウ アキラ、S55教育行政卒)

Dやユニセフなどの国際機関によつて勧告されるような日本の子どもたちのメンタルヘルスに関する問題、学力競争を国家が改めて旗を振つて組織しなければならないような現状、依然として私費依存度が高すぎるがゆえにもたらされる教育の不平等、他方でメディアを

使うことでもある。だから、大学院重点化と高度なぎわす親たちの給食費や保育料の滞納問題とモラルの問題が肩にのしかかる

教育成果が貢献できるか、というミッションの遂行に

関わることもある。だか

ら、大学院重点大学と比較して

専門職養成などといったス

ローガンが肩にのしかかる

私たちの組織は、ほかの

大学院重点大学と比較して

も、たしかに研究者養成で

も決して引けはとつていな

いことでもある。

私たちの組織は、ほかの

大学院重点大学と比較して

も、たしかに研究者養成で

も決して引けはとつていな

い。また本年度からは、子ども発達臨床研究センターを基礎に、今までにないような大型の競争的外部資金も取つた（特別教育研究経費・戦略的研究推進事業「軽度発達障害児者に対する生涯教育支援プログラムの開発」代表田中康雄教授）先生方のいわゆる文部科学省の科研費獲得も恥ずかしい水準ではない。しかし、このところ気になるのは、このところ気になるのは、学部や大学院レベルにおける教育面での競争的外部資金が獲得できていないことである。これは、高等教育にという領域であれ、その教育実績や今後の改革方向が外には見えていない、外部からは評価されていないということである。本学部を卒業された諸先輩からすれば、「学内でもっとも充実していたはずの教育学部の教育はどうなつてているのか」と叱咤を受けそうだが、事実ではある。

この四月一日から発足した新たな研究院・学院体制が目指している方向は以上のこととも関わっている。その狙いは、一方で、個々人がより自由な研究体制を組みつつ焦眉の課題、基礎

の課題、未来を開く課題に取り組みやすくする、他方で、さまざまな教育問題（応用問題）解決に貢献できる能力を持った研究者やより高度な専門職・専門性をそなえた職業人の養成をすることがある。つい最近、ようやく検討を始めた臨床心理士養成の課題もそこに含まれる。具体的に紹介すれば、これまでの研究科・学部体制を次のように再編された。すなわち、教育社会癡展論分野、人間発達科学分野および子ども発達臨床研究センターからなる「教育学研究院」、学校システム開発講座、発達教育臨床講座、教育社会計画講座、健康スポーツ教育論講座、国際多元文化教育論講座からなる「教育学院」、そして「教育学部」である。なお「教育学院」は教育学研究院以外に「高等教育機能開発総合センター」および「メディア教育学院」は教育学部史上最大院からの協力で成り立つ組織であり、スタッフはこれまでの教育学部史上最大の五六名を数えるにいたつた。

の「中期計画・中期目標」にもとづく“評価・評価”の波をおぼれず、多様な能力にあふれた教員が個々にパワーアップし、かつ組織としての安定したパワフルな航海をする姿が、その行く先の明確化とともに、社会からも、周囲からも、学部内からも求められれている。このような船舶の構築には、諸先輩や卒業生の財政、就職、教育・研究などなど、さまざまなサポートが必要である。

## 大学・学部の新体制と新たな同窓会活動の模索



同窓會

竹田正吉

一、大学・学部の新体制の

教育実践や今後の改革方針が外には見えていない、外部からは評価されていないということである。本学部を卒業された諸先輩からすれば、「学内でもつとも充実していたはずの教育学部の教育はどうなつているのか」とお叱りを受けそうだ

が、事実ではある。  
この四月一日から発足した新たな研究院・学院体制が目指している方向は以上のことも関わつてゐる。その狙いは、一方で、固々

しかしこのごろは、だれもが、どこもが、法人化後

解れば、戦略的研究推進事業費」の獲得に伴う採用である。また今年三月には、

これまで文字通り教育学部の生き字引・顔として、おそらくもつとも有名である逸見勝亮先生、スキーの授業あるいはカラオケシンソンが目に浮かぶ鈴木敏夫先生が退官され、残念無念なことだが、フィールドワーク研究者の鏡であり、ホームレス支援活動をリードしてきた椎名恒先生が逝った。

―― ☆―― ☆――

## 大学・学部の新体制と新たな同窓会活動の模索

国的な観点からも大きな改革に取り組みました。また、逸見勝亮理事・副学長は中村前総長を支えてきましたが、本年（二〇〇七年）五月からは、佐伯浩新北大総長を支える理事・副学長に再任されています。

鈴木敏正前教育学研究科長・学部長は、教職員とともに教育・研究の質的発展に尽力し、かつ、諸外国との研究交流のみならず、地域や社会との結びつきを重視し、その一環として、教育学研究科・学部と同窓会との関係も強化されました。また、新しい教育学院・教育学研究院への改革を準備し、かつ、実現しました。

本年五月一日からの新体制は、青木紀大学院教育学院長・大学院教育学研究院長・教育学部長と所伸一副院長・副研究院長・副学部長ほかの体制で活動し始めています。学外者には難解なこの新体制の詳細な内容については、青木院長・科長・学部長が詳しく記しておられるでしょう。

二、学部・大学から同窓会への「プレゼント」

私ども同窓会との関係では、とくに、近年、二学年度にわたり、同窓会の要望を鈴木前学部長や須田勝彦教授らが受け止め、尽力されて、卒業式の日に、教育学部同窓会の「学年幹事」を卒業生自身により男女各一名、計二名を選出してくれたことです。すでに、二年間四名の若い同窓会幹事が誕生しています。このことは、同窓会の活性化や将来展望を考えると、学部から同窓会活動への尊い「プレゼント」であり、宝といえます。本年六月六日に、札幌駅北口のアスペンホテルで行われた北大連合同窓会総会の席上、この新卒業生からの学年幹事制度を報告しましたところ、懇親会のおり大変注目されました。

もうひとつ、学部・大学から同窓会への「プレゼント」は、逸見勝亮理事・副学長が、昨年一〇月一九日の札幌駅北口のアスペンホテルで行われた教育学部同窓会総会・懇親会に先立ち、佐藤昌介札幌農学校長（後）に北海道帝國大学初代総

長)について、興味深い資料をはじめてウォランティアで、三〇分間のミニ講演をしてくれたことです。このミニ講演は、本年一〇月一八日(木)六時からアスペンホテルでの教育学部同窓会・懇親会でも、最初に、青木学部長から現代の貧困・格差と教育問題について講演していただくなっています。

### 三、同窓会から学部・大学への貢献のアイデアは?

本年六月二二日(火)六時より北大遠友学舎で、本同窓会幹事が開催され、

青木学部長、所副学部長と齊藤彰幹事長と私と四名で懇談し、総会・懇親会への教職員の出席や同窓会員の学部への貢献のことについて話しました。その後、各関連委員会で検討していることです。

また、前記の幹事会では、私が「北大フロンティア基金」の報告がなされました。そのさい、教育学部同窓会の会員の自由意志によるボランティア活動として、学部・大学の要望に応じて、たとえば、(一)会員の専門や経験について講義やゼミで単発のお話をすることや、(二)就職情報や就労・働くことの意義について学生・院生と懇談すること、(三)学部が希望した場合、学生・院生の企業・施

設の見学やインターンシップを紹介すること、などが話し合われました。今後、学部・大学への貢献の多様なアイデアを検討するとともに、会員の自由意志によるウォランティア活動として貢献可能な方を、まず、幹事から募り(すでに数名の賛同あり)、順次会員にひろげてゆきたいと思います。

### 去る七月三日(火)に、

青木学部長、所副学部長と齊藤彰幹事長と私と四名で懇談し、総会・懇親会への教職員の出席や同窓会員の

本館の現北大博物館1階壁面に表示されます。基金額は、すでに、二億円ほどになつております。

### 四、同窓会総会・懇親会へのご参加を!

今年の教育学部同窓会の総会・懇親会は、本年一〇月一八日(木)午後六時から札幌駅北口アスペンホテルで行われますが、年代を問わず、多数の同窓生や、かつて、教育学部で教職員を経験された方々がご参加くださいますよう祈念いたします。

### 昨年度の同窓会総会で、

留学生の奨学金や研究支援、また学部支援、卒業生との連携、社会貢献などのため、二〇〇六年一〇月から五〇億円基金の募集が始まつて

権名恵さんを偲んで  
シナコウ



北海道大学名誉教授

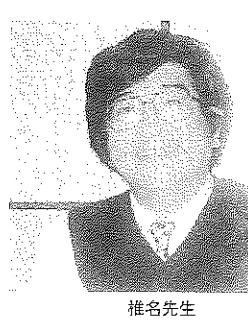
### 木村保茂

権名恵(産業教育研究室教授)さんが昨年一〇月に亡くなられた。享年五九歳の働き盛りであった。権名さんは建設労働研究、ホーミレス研究などでマスコミに名が売れていたが、ここでは権名さんとの出会いや産業教育研究室の同僚時代を偲びたいと思う。

権名さんと初めて会ったのは一九八〇年代末の頃だつたと思う。彼は当時「かながわ総研」で町場建築職人・一人親方調査をしており、従来の町場、野丁場とは異なる新丁場を発見した頃である。岩手大学の佐藤真さんを介して、学会の懇親会で知り合った。豊かで

会誌、労働年鑑、組合誌、その他論文と数多くの原稿を書かれていた。氏のもつとも脂がのつていた時期だったと思う。権名さんの研究領域は建設政策、建設業界・企業、建設労組・労使関係と建設業全体にまたがつていた。どの研究領域の論文もユニークであったが、もっとも注目すべきは「たとえば、当時の法政大学大原社会問題研究所に名が売れていたが、ここが出ていた。建設労働者の組織化の可能性を追求した研究論文(たとえば、当時の法政大学大原社会問題研究所に掲載)は、調査の確かさ、研究の視点・論理展開のユニークさにおいて目を見張るものであつた。

権名さんはその後、一九九六年に北大教育学部産業教育研究室に赴任してきた。多くの知人・友人が北大への赴任を祝福してくれたが、中でも専修大学の加藤祐治先生(故人)と九州大学の岩手大学の佐藤真さんを介して、学会の懇親会で知り合つた。豊かで黒い頭髪と肥りはじめた丸顔が印象的だった。彼はその後、九三年に「建設政策研究所」に移られ、建設政策研究所雑誌をはじめ、学



権名先生

下山房雄先生はわがことのように戸んでいた。加藤祐治さんは東京時代に椎名さんが出入りしていた研究会の主催者で、当時のホームレス研究（山谷研究）の第一人者であった。下山さんは椎名さんの「かながわ総研」時代の理事であり、後に九州大学の教授、下関大學の学長をされた。お二人とも椎名さんの力量を高く買つておられ、その彼を迎えた北大教育学部を大変評価していたことを思い出す。

椎名さんが北大にきて取り組んだ研究は、季節労働者調査、失業者調査、ホームレス調査、ダム労働者調査である。とくにホームレス調査は、当時北大教育学部の教授であつた杉村宏さん（現・法政大学教授）とともに始まつたと記憶している。お二人とも、かつてのホームレス研究（山谷研究）の第一人者であったのは、何かの縁であろうか。ホームレス研究はその後、椎名さんによつて担われ、ホームレス支援団体（北海道の労働と福祉を考える会

）へと発展していった。「労福会」はその事務局を椎名研究室におき、「学生たちを中心とするホームレス自立支援」の母体であった。その活動の一端は、南部葵君ら（産業教育研究室の卒業生、労福会三代目事務局長）によって作られた「現実をわがものに—椎名恒教授追悼文集」（二〇〇七年）の中に示されている。そこにはこれは、大学内での講義や調査の枠を超えて、椎名先生が若く率直な学生たちの可能性と行動力を信じ、現実社会の問題と真剣に向き合おうと格闘し続けた七年間の実践記録である」と記されているが、同時にそれは、椎名流の研究・教育と実践の結合であつたと思われる。こうした実践的活動や教育・研究を通じて椎名さんが蒔いた種は、多くの若者たちによつて引き継がれていくことだろう。

当時、社会に出るということ、仕事をするということの意味についてあまり考えたことはなく、自分自身がどのような仕事をしたいのか、全くイメージがありませんでした。友人たちが夢を語り、その実現のため努力をする姿勢を見て焦りますが、なんて偉そうに書いています。

近藤麻里（旧姓 寺下）

197年卒45期 教育計画ゼミ

現在は、ローカルシンクタンクにて「研究員」という肩書きのもと、主として保健・福祉分野の調査研究に携わっています。卒業論文だってまともに書けなかつたのに、調査の企画を立て、数字を集めて集計・分析し、報告書をまとめるというのが、今では日常です。自分自身が想像していなかった「働く私像」からは全く対極にあるような仕事であり、こんな私に務まるだろうかと自問自答することもありますが、子育てしながら、給料が安いと文句を言ひながらも続けているといふことは、今の仕事に魅力を感じ、仕事を楽しんでいるのだと思います。

月曜日には「仕事、行きたくないなあ」と思うし、休みの日はうれしいし、でもやつぱり仕事をしない毎日というのは考えられない。仕事をすること、それは「自己実現」というほど大げさな話ではないものの、毎日の生活で積み上げられていく経験の断片を、何かの形にまとめることができるという楽しさがあるのだと感じます。きっと、これが私は楽しめない仕事は続かないだ、と。

アルバイトから正社員に採用されて、楽しいと思えません。なんて偉そうに書いていますが、「この仕事

ませんでしたが、元来、行きましたが、どうもピンときません。が、どうもピンときません。段だなどとよく言います。現在は、ローカルシンクタンクにて「研究員」という肩書きのもと、主として保健・福祉分野の調査研究に携わっています。卒業論文だってまともに書けなかつたのに、調査の企画を立て、数字を集めて集計・分析し、報告書をまとめるというのが、今では日常です。自分自身が想像していなかった「働く私像」からは全く対極にあるような仕事であり、こんな私に務まるだろうかと自問自答することもありますが、子育てしながら、給料が安いと文句を言ひながらも続けているといふことは、今の仕事に魅力を感じ、仕事を楽しんでいるのだと思います。

月曜日には「仕事、行きたくないなあ」と思うし、休みの日はうれしいし、でもやつぱり仕事をしない毎日という声もあり、正直悩んで時期もありました。しかし、この保育園というのが本当にすばらしい！世の中の母さんみんな保育園に預けられたらしいのに、と思つてしまふほどです。さまざまな年代の子どもたちとの関わり、家庭ではなくできない毎日の遊び、着替えやトイレなど基本的な生活習慣の習得など、保



員、学長、理事、理事の仕事を通じて知遇を得た各界のひとびと、面識のなかつた市民の方々など、二〇〇人を超す参加者を得て、なかなかの盛会でした。

◇僕の生活が変わったからなのか、そもそも鳥が減つたのか、出会つた鳥はわずかです。通勤途中や出張先の車中から観たのは、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ワタリガラス、スズメ、ヒヨドリ、キジバト、ムクドリ、コムクドリ、エゾアカゲラ、キビタキ、アカハラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、シジュウカラ、トビ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、チュウサギ、ゴイサギ、ウグイス、マガモ、カルガモ、コチドリなど。

早朝に北大野鳥研究会の学生たちと出会えれば、「今朝は何を」と観察記録をのぞき込んで、憂さを晴らしています。

◇例によつて理事室に来てくれたひと、大学の仕事がらみ、コンサート、道端、本屋などで、会つたり遇つたり、会おうとして会つたひとびと。

榎原宏通、土田佳織、辻英之、白取道博、三上敦、岩本百合子、杉山岳、山下直樹、高木悠子、菅原紫、岩本百合子、杉山岳、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

榎原宏通、土田佳織、辻英之、白取道博、三上敦、岩本百合子、杉山岳、山下直樹、高木悠子、菅原紫、岩本百合子、杉山岳、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

武藤拓也、井上高聰、山本美穂子、小川正人、鹿嶋桃子、塚本智宏、新井直子、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

武藤拓也、井上高聰、山本美穂子、小川正人、鹿嶋桃子、塚本智宏、新井直子、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

武藤拓也、井上高聰、山本美穂子、小川正人、鹿嶋桃子、塚本智宏、新井直子、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

武藤拓也、井上高聰、山本美穂子、小川正人、鹿嶋桃子、塚本智宏、新井直子、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

武藤拓也、井上高聰、山本美穂子、小川正人、鹿嶋桃子、塚本智宏、新井直子、米田秀喜、山田敏之、高瀬美菜、福庄亮逸、武藤俊雄、山口智子、安河内佳乃、藤支良道、藤支有里、山川桂輔、沼田のぞみ、相沢重雄、江口宝松、鈴木徹郎、金山聖子、水口勝弘、矢橋佳之、中村瑞穂、遠藤智恵子、高橋道裕、栗原勝憲、工藤典子、加藤裕明、鈴木百江、岡和孝、後藤美海子、山田敏之、近藤健一郎、広瀬健一郎、金井優美子、井上薰、佐藤真康、津野田亮子、宇野大輔、松本斎、伊藤郁子、矢田和也、小倉直樹、有紀、米内山康高、奥澤紗綾香、齊藤なほこ、中田三砂子、大谷智昭、齋藤彰、今田裕、松本伊知朗、花岡真佐子、劉長征、金子裕美、中瀬友美、大谷薫、久倉幸、内田雅史、三浦英典の面々。

第25号 北海道大学教育学部同窓会

声の持ち主なのだが、顔は南原清隆である。そして電気スタンドにライトアップされた兎澤の顔は、怖い。「みんな、もっと盛り上がるうぜ」と言わんばかりに小西からギターを奪うと、おきまりの一曲を歌いだした。曲目は『大きなのっぽの古時計』。今思うと兎澤は先見の明があった。これは、平井堅が同曲のカヴァーで大ヒットをとばすことになる。適材適所といつたところだろう。しかし、残念ながらこの状況での『大きなのっぽの』は完全な選曲ミスである。兎澤が歌い終わると、重苦しい雰囲気が部屋中に漂った。少しずつ白みはじめた空が無力感をいつそうかきたてる。合コンについての作戦会議は、いつの間にか単なる好みの女性のタイプの話になり、やがて誰かの寝息を合図に、会はフードアウトしていくのだった。

セシ）、ただ毎日を漫然と過ごしていた。こう書くと、當時のことと悔やんではいるようだが、そうではなく、今振り返ってみても本当に素晴らしい時代だったなあと懐かしく思う。九州から出てきた僕にとっては北海道での生活はすべてが新鮮だつたし、とりわけ北大の自然是、時に目をみはるほど美しかった。そのような恵まれた環境の中で、僕は日々バイトに励み、食費を削つて金を浮かせては、古本屋やレコード屋、そして映画館へと足繁く通っていた。たいしたことをしていたわけではないけれど、僕はそうやって毎日を過ごすことが楽しくて仕方がなかつた。おかげで本はたくさん読んだし、映画館のハシゴもよくやつた。新しい音楽に触れることもできた。それがどんなに贅沢な時間の使い方だったか、今になつてよくわかる。

けれど、だからといってもう一度あの頃に戻りたいかというと、それはまた別の話だ。一見平穀にも思えた数年間にも、やはり風や波は襲ってきて、そのせい

で眠れない夜も何度もあつたし、傷つきもしたし、深く落ち込んだりもした。今考えればたいしたことではないことも、まだ二〇歳前後の、そして精神的にはもっと幼いヒヨツ子には少々辛かったようである。作家の村上春樹さんもエツセイの中で、同じようなことを書いていて、「もし神さまが現れて、君をもう一度あの時代に戻してあげようと言つてくれたとしても、お札を言つて断る」と述べているけど、僕も同感である。村上さんじやないけどあれは一度きりで充分だ。

そして近頃では、年を重ねるというのは結構良いものだと思うようになってきた。食事や酒は量より質を重視するようになつたし、服だつてそれなりのものを着るようになつた。本も単行本で買うようになつたし、映画だつて無理して小難しいものを観なくなつた。ニール・ヤングの音楽もひしひと胸に染みるようになつてきた。そして何よりも傷つきにくくなつた。生きるのが樂になつてきた。これを幸せの一つと言わざしで、何と言おう？

何かといえばよつちゅう集まつていた僕らも、卒業を機にそれぞれの生活を送るようになり、次第に顔を合わせることも少なくなつていつた。卒業から数か月ほど経つたある日曜日の夕方、兎澤から電話があり夕食に誘われた。在学中にちゃんと内定をもらい、四月から社会人として働き始めていた兎澤に比べ、僕は就職浪人だつた。ビールを呑みながら他愛もない話をして、食事を済ませると兎澤は僕の分も支払つてくれた。学生時代ならば「えつおごり??」こつあんです!!」と威勢よく叫ぶところだつたが、アルバイトで生計を立て、さらには情けないことに親から金を借りて生活していた僕には、そんな恥ずかしいことはとても言えなかつた。札幌にすがり、大学時代の思い出にすがつてこんな生活を続けているのは、誰のせいでもなく、すべて自分のせいだつたのだ。「明日は仕事だ」と言つて、兎澤は帰つていつた。明日も明後日も、その先ずっと何の予定もない僕は帰宅し、部屋に寝転がつてボーッとしていた。本を開

くでもなく、音楽を聴くわけでもなかつた。ただひたすらに、不安だつた。

卒業から七年後、僕ら三人は東京で再会した。やや額が広くなつた小西がいて、そしてようやく携帯電話を使いこなせるようになつた兎澤がいた。そして僕は、将来絶対に就きたくない仕事を一つに挙げていた教師になり、また絶対に帰らないと言い張つていた地元に戻つていた。三人で昼間から酒を飲み、へ口へ口になつて帰宅したが、学生時代と同じく何を話したか、お互に全く覚えていなかつた。この先、また顔を合わせることがあつても、たぶんずつとこんな感じなのだろう。そしてカミさんには、ちょっとと言えない、ワルダクミの夜が幾度となく繰り広げられるのだ。そう、お楽しみはこれからだ。

’89年卒 教育社会学講座



オランダ便り

など少し変わった（先進という意味も込めて）と  
うイメージがあると思いま  
す。また昨今ワークシェ  
リングとパートタイム労  
者の権利拡大を通して、  
業率低下と経済成長を実  
させた「オランダモデル」  
としても注目されています。  
オランダに生活してみて  
強く感じたことは、「時間の  
なゆとりがどれだけ人々  
生活を豊かにしていくか」  
ということでした。

い　ア　マ　イ　ア　マ　イ　ア　マ　イ  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
的　的　的　的　的　的　的　的　的　的  
の　の　の　の　の　の　の　の　の　の  
番　現　失　勵　ア　マ　イ　ア　マ　イ  
す。」

みなオランダ人」という言葉に示されるように、移民や他国籍人の受け入れも賣容。

このように數え上げたらキリがないくらい「豊かさ」を感じる場面は多くありました。それはやはり人々の間に横たわる「時間のゆとりを失わない」という一定の価値観に基づいているのではないかと思いました。言つてみればスローライフです。

から毎日感じるのは「どうしてこんなに生活が忙しいのか」、「こればかりです。これで「自分は残業をしない」と会社で宣言できれば私も強いのでしょうか、日本企業にあってなかなかそれはできないことです。しかし自らの生活観と会社組織との関係をどう決めるのか、これからも考えていくたいと思います。

年賀状印刷と格闘する年の瀬



ほとんどのオランダ人は、残業をしない、金曜日は午後二時に帰宅の途につく。週末はそこそこにある地元スポーツクラブで子供から大人までがサッカーやホッケーの試合を楽しみ、一泊二日の旅館で泊まつて併せてアルコール片手に談笑。へんな話題で、延々とおしゃべりが続く。夏冬の休みはきまつて家族で三週間の旅行。

確かに税金は高いし、不便さを感じる場面も多々あります。例えば故障修理なんて何日もかかる。遅れるのは日常茶飯事。でもみんな「徹夜して取り戻そう」とはならない。人間の生活が先にあるのです。（住んでいた家が壊れて大家に修繕を依頼したのになかなか対応してもらえずイライラが募っていた矢先に、その大家から「家が壊れたのは俺のせいじゃない。まあ、焦るな。」と言われたときには思わず笑ってしまいました。）

卒業してから、いつの間にか二〇年以上経過していました。札幌市内に勤務し続けていながら、同窓会にも学部にも顔を出さない無礼を続けています。総会は毎年一〇月に行われている

84年卒 教育方法学  
国 安 保

る年の瀬

ほとんどのオランダ人は  
残業をしない、金曜日は  
後二時に帰宅の途につく。  
週末はそこここにある地  
上駅で、子供から大人まで  
がサッカーやホー  
ケーの試合を楽しみ、一  
ポートの後は決まって併  
されているバーに集まつて  
アルコール片手に談笑。へ  
日の天気からバカンスでチ  
れた国の話題、経済の話題  
延々とおしゃべりが続く。  
夏冬の休みはしまつて家族  
で三週間の旅行。

確かに税金は高いし、不便さを感じる場面も多々あります。例えば故障修理なんて何日もかかる。遅れるのは日常茶飯事。でもみんな「徹夜して取り戻そう」とはならない。人間の生活が先にあるのです。(住んでいた家が壊れて大家に修繕を依頼したのになかなか対応してもらえずライライラが募っていた矢先に、その大家から「家が壊れたのは俺のせいじゃない。まあ、焦るな。」と言われたときには思わず笑つてしまいました。)

行状況などを通じて「つがり」を感じ取っています。当社の主要事業のひとつに年賀状印刷があり、毎年このプロジェクトチームに入ります。自社で直接注文を受ける分もありますが、大半はコンビニエンスストアやスーパーのブランドで販売しているものを当社で制作する分になります。タログにある好みの絵柄を選んでいただいて、そこのお客様の住所や名前を印刷する、通称「名入れ印刷」の注文を一シートで約〇万件手がけます。私は、生産管理システムの開発から準備が本格化し始め、毎年八月のお盆休み前後から運用に責任を持っており、

なつに年又トトで力柄印とこかがす。すが、やつてみると思いほか手間のかかるものでインキなど消耗品のコストもばかになりません。

印刷を注文すると郵便号・住所・電話番号・名前とバランスがとられてきですが、Wordを代表としたパソコンのワープロソートで縦組の住所・名前をイアウトしようとすると多くの方がそれまでにはえなかつた障害物の“手さ”のため、横組に切りえるか体裁に妥協するか余儀なくされます。縦書きの中で郵便番号だけが三四桁で横に組まれてい“何気なさ”をWord実現しようとすると、か

●年賀状印刷サービスの現況  
そういういた事情もあり、名入れ印刷の需要は大幅な伸びを期待することはできませんが、それでも、まだ堅調です。慣習としての新年の挨拶が年賀状だけにとどまらず『あけおめ、ことよろ』の携帯メールなどに移り、変わつていて、個人情報保護法の施行をきっかけに企業が年賀状印刷を取り止めたりという影響で、年賀はがきの販売枚数はここ数年減少傾向にあります。  
最近は、インターネットで年賀状印刷を注文し商品を受け取りはお店で、というサービスも定着してきました。パソコンの画面で納得

を紹介させていただくなり、近況報告と無礼の言訳をさせていただきます。勤務先は、札幌市中央にある(株)アイワードといふ印刷会社です。私が在学頃は(株)共同印刷という社でした。旧名をご存知の方もいらっしゃるかもしれません。北大や教育学部の先生も少なくありません。私は生産管理の部門にとり、直接お客様のところへ伺ひませんが、製品の販

賀状名入れ印刷の申込み  
始まる一〇月には、年末  
で休みのない“臨戦態勢  
に突入しています。お得  
先が、コンビニエンスス  
アや年内休まず（最近は  
年元日も）営業するス  
パーですので、受付期間  
は当方も気が休まること  
ありません。

●意外に難しいはがきの印  
昨今はパソコンの普及  
年賀状も自宅のプリンタ

りの苦労を覚悟しなければなりません。文字の大きさも住所が小さく名前が大きいのですが、これもパソコン初心者の方が最初にぶつかるカベのひとつです。

当社では、自社開発のエンピュータソフトで、ほんどのものが自動的にレイアウトが組めるようになりますが、全体の数パーセントは人間の目と経験・挂量による調整をしなければならないものになります。







小林 賢（55年卒）登別市

幌市中央区

○「同窓会だより」（一四四号）  
ありがとうございました。

大変興味深く拝見いたしました。  
した。

前田 憲（64年卒）名寄市

○高校生に英語と登山を教  
えています。

佐々木 勇介（00年卒）  
上川郡上川町

○体調もよく六月に知人と、  
九月には旧制中同期会でゴ  
ルフを楽しみました。ライ  
フワークの古仏像研究（鉛  
彫り）で寂尊仏（所持品）  
が文献（目定の彫刻P二八  
二）で真物とわかりました。  
北海道の鉛彫り（円空、木  
喰、目定など）の情報あり  
ましたら、お寄せください。

常本 勇（55年卒）札幌市北区

○毎年一〇月第三木曜日同  
窓会出席という方程式

が、今年は崩れてしまいま  
した。次年度以降、また  
新鮮なところで参加しま  
す！

## 同窓会 同窓会

○一〇月一二一六日小樽・札幌ですが、一八二

小松 秀樹（79年卒）神奈川県川崎市

前田 輪音（91年卒）札幌市手稲区

○日こちらで不可欠の用事  
があり、同窓会欠席です。

○最初の赴任校で、いきなり陸上部の監督を命じられ、そのまま選手の指導と協会の審判員をしていくうちに五〇年近くの歳月が流れ去了りました。定年退職後も小樽後志陸協の記録委員長を務め、大会のたびに手宮陸上競技場に通っています。

八幡 一志（58年卒）小樽市

○療養中ですので、よろしくお願いいたします。

古瀬 卓男（57年卒）札幌市中央区

○高校野球の指導に携わって二十年がたちました。今

日もまた、生徒たちにノックを打つ日々です。皆さん、お元気で。

高橋 仁史（87年卒）旭川市

○健康に恵まれて第一の職場で楽しく働いております。

木曜日は相談日にて遅くなり、残念ですが欠席いたします。

内山 滋子（56年卒）札幌市中央区

○同窓会の皆様のご多幸とご盛会を祈念いたしております。

本間 實（55年卒）旭川市

○教育学部に行くたびに、四〇四号室の前を通り、逸見先生の「居所」を示すプレートを見ておりました。

「探さないでください」という選択肢を真似て、私の研究室前にもはつてあります。（学生に好評？）。「四〇四号室から」が最後になる

北大から東京学芸大学・静岡大学と移られ、その後、国分寺市長を一期務められました。

憲法学者として市民憲法講座を主宰されるなど、学究の徒としてまた一市民として真摯な生涯を貫かれました。つつしんでご冥福をお祈りいたします。

○七四歳、健康に恵まれ、日々是好日です。

橋内 哲也（55年卒）札幌市厚別区

○竹田先生、同窓会長にご就任のこと、ご苦労さまであります。逸見先生、いよいよ退任とのこと。北大に先生がいなくなるのかと思うと寂しい限りです。

○大学もさまざまな改革が行われているようですね。

私の会社も大改革中ですが、

東京に単身赴任で汗を流しています。

和田 昇（83年卒）大阪府寝屋川市

○肺手術後で体調不良でそのままお伝えください。

○肺手術後で体調不良でそのままお伝えください。

○回復に努めています。皆様によろしくお伝えください。

○同窓会の皆様のご多幸とご盛会を祈念いたしております。

中川 明（56年卒）札幌市北区

○同窓会の皆様のご多幸とご盛会を祈念いたしております。

山崎 真秀先生



○毎年一〇月第三木曜日同窓会出席とい

う方程式

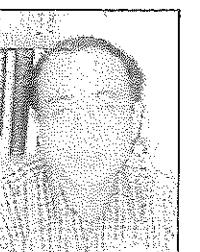
が、今年は崩れてしまいま

した。次年度以降、また

新鮮なところで参加しま

す！

大塚 功喜（88年卒）札



鈴木 敏夫先生

去る九月二〇日逝去、享年六三歳でした。

平成三年九月より北大教育学部教授、平成一二四年六月より北大大学院教育学研究科教授をつとめられ、現在北大名誉教授でした。専門は近代日本体育・スポーツ史で、日本の体育学会においてさまざまな点で指導的役割を果たされ、まだまご活躍が期待されていました。つつしんでご冥福をお祈りいたします。

## 計報

○「同窓会だより」（一四四号）  
ありがとうございました。

大変興味深く拝見いたしました。  
した。

前田 憲（64年卒）名寄市

○高校生に英語と登山を教  
えています。

佐々木 勇介（00年卒）  
上川郡上川町

○体調もよく六月に知人と、  
九月には旧制中同期会でゴ  
ルフを楽しみました。ライ

フワークの古仏像研究（鉛  
彫り）で寂尊仏（所持品）  
が文献（目定の彫刻P二八  
二）で真物とわかりました。  
北海道の鉛彫り（円空、木  
喰、目定など）の情報あり  
ましたら、お寄せください。

常本 勇（55年卒）札幌市北区

○毎年一〇月第三木曜日同  
窓会出席とい

う方程式

が、今年は崩れてしまいま

した。次年度以降、また

新鮮なところで参加しま

す！

大塚 功喜（88年卒）札

○七四歳、健康に恵まれ、日々是好日です。

橋内 哲也（55年卒）札幌市厚別区

○竹田先生、同窓会長にご就任のこと、ご苦労さまであります。逸見先生、いよいよ退任のこと。北大に先生がいなくなるのかと思うと寂しい限りです。

いずれも送料込みです。

ご希望の方は総会の時、もしくは事務局齊藤（〇九〇一三七七三一八八二四）まで直接お申し込みください！

## 北海道大学教育学部同窓会会則

## (名称及び目的)

第1条 本会は、北海道大学教育学部同窓会と称し、会員相互の親睦及び研鑽を図ることを目的とする。

## (組織)

第2条 本会は、次のものをもって組織する。

- (1) 正会員、準会員 北大教育学部及び本学部大学院出身者
- (2) 特別会員 本学部現旧教官
- (3) 賛助会員 本学部現旧事務官

## (事務局)

第3条 本会は、事務局を幹事長の住所におく。

## (事業)

第4条 本会は、その目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 研究会、講演会等研鑽のための行事
- (2) 各種会合等親睦のための行事
- (3) 会誌、名簿等の発刊
- (4) その他必要な事業

## (総会)

第5条 総会は、全会員を持って構成し、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画
- (2) 予算
- (3) 役員の選出
- (4) 決算の承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他会長が会の運営上重要と認める事項

第6条 総会は、定期総会及び臨時総会とし、会長が招集する。

- (2) 定期総会は、毎年1回招集する。
- (3) 臨時総会は、会長が必要と認めたときまたは会員の5分の1以上の要望があったときに招集する。

第7条 議事は出席会員の3分の2以上の多数により決する。

## (役員)

第8条 本会に次の役員を置く。

- 会長 1人
- 副会長 若干名
- 幹事長 1人
- 幹事 原則として各卒業年次ごとに1人
- 会計幹事 2人
- (2) 役員はすべて総会において互選する。
- (3) 会長は、本会を代表し、会務を統理する。
- (4) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- (5) 幹事長は、幹事を統括する。
- (6) 会計幹事は、会計を監査する。

## (幹事会)

第9条 幹事会は、会長、副会長及び幹事をもって組織し会務を執行する。

- (2) 幹事会は、会長が招集する。
- (3) 幹事会は、構成員の過半数をもって成立し、議事は出席した構成員の過半数をもって決する。可否同数のときは、会長の決するところによる。
- (4) 前項の規定にかかわらず、緊急又は軽易な事項については、書面又は口頭により賛否を求め、幹事会構成員の過半数をもって決することが出来る。

## (任期)

第10条 役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(廢問)

第11条 本会に顧問を置くことが出来る。

(2) 顧問は会長が委嘱する。

(三) 三

第12条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入を持って充てる。

(2) 会費は、年額2,000円とする。但し、特別会員・賛助会員からは徴収しない。

第13条 本会の収入及び支出はすべて予算に計上して行う。

第14条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする

(支 部)

第15条 各地方ごとに本会の支部をおくことが出来る

(補用)

第16条 本会則に規定するもののほか、本会の運営に必要な事項は会長が幹事会に諮って決定する。

付 则

本会則は 昭和28年3月25日から施行する

古文真賞

本会則は、昭和52年9月27日から施行する。

付 頁

本会則は、昭和57年8月13日から施行する。

付 則

本会則は、昭和60年7月1日から施行する。

付則  
本法施行の場合は、第百四十九条の規定による。

本会は幹事長を次の会員に委嘱する（記）

金務報告 (H18.10.19~H19.9.10)

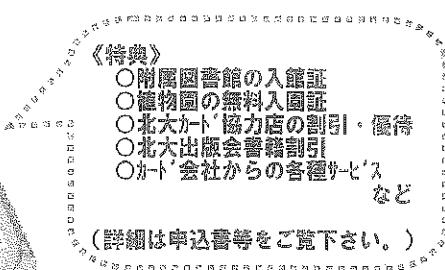
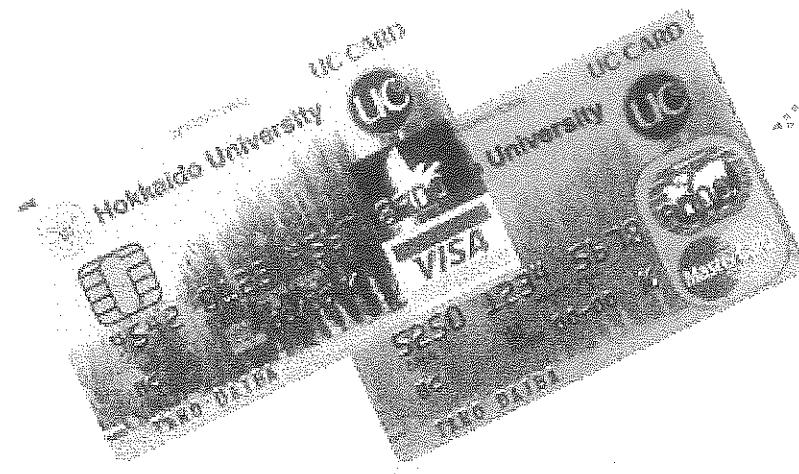
期 日	会 務 事 項
H18. 10. 19	同窓会総会、懇親会 37名参加。
H18. 10. 22	御園生 康 様（3回生）逝去に付き竹田会長名で弔電。
H18. 11. 2	椎名 恒（シイナ コウ）教授 故去に付き竹田会長名で弔電。
H18. 12. 7	同窓会総会参加者へ集合写真とお礼状を郵送。
H18. 12. 22	役員・幹事・特別会員あてリテラ・ポプリ郵送。
H19. 1. 5	野崎 弘明 様（5回生）逝去に付き竹田会長名で弔電。
H19. 1. 10	中川 明 様（4回生）逝去に付き竹田会長名で弔電。
H19. 2. 9	柚木 馥（ユノキ カオル）様（S38、MC修了）逝去に付き竹田会長名で弔電。
H19. 3. 5	役員・幹事・特別会員あてリテラ・ポプリ郵送。
H19. 3. 17	逸見 勝亮先生、最終講義。竹田会長と斎藤が参加。花束贈呈。
H19. 3. 22	学生主催の卒業記念パーティー。斎藤が参加。
H19. 3. 23	北大卒業式。学部の学位記授与式・祝賀会に竹田会長と斎藤が出席。学年幹事委嘱（吉田 温子さん、奥山 友貴さん）。同窓会としてビールを贈りました。
H19. 4. 16	役員・幹事・特別会員あてリテラ・ポプリ郵送。
H19. 6. 6	北大連合同窓会合同会議。竹田会長と斎藤が出席。
H19. 6. 12	幹事会開催
H19. 7. 4	山崎 真秀先生（元学部教官、教育行政学）逝去に付き竹田会長名で弔電。
H19. 9. 5	役員・幹事・特別会員あてリテラ・ポプリ郵送。

会計報告 (H18.9.21～H19.9.10)

収入の部		支出の部	
前期繰越	277,603	総会時支払 (H18)	41,650
総会時収入 (H18)	217,000	会報作成発送費 (H18)	372,961
会費等収入 (料金相殺)	434,145	通信費	56,614
雑収 (銀行利息)	137	雑費・消耗品費	8,107
		慶弔費	40,104
		交際費	34,000
		小計	653,436
		* 次期繰越	275,449
合計	928,885	合計	928,885

* 繰越内訳	
郵便振替残	216,848
銀行預金	58,601
計	275,449

# 学生支援の「北海道大学カード」



**この利用額に応じた提携手数料がカード会社から還元されます。**  
**これを「学生支援資金」として、奨学金などの学生支援に活用しております。**

## お申込について

1. 専用申込書を下記あてご請求下さい。専用申込書をお送りいたします。
2. 「申込書」に所定事項記入・捺印いただき、ご投函下さい。
3. お申込から約1ヶ月後に、カード会社から配達記録郵便でご自宅あてお送りいたします。

## 申込書ご請求先

北海道大学連合同窓会事務局(北海道大学総務部広報課)

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話:011-706-2153 FAX:011-706-4870

E-mail:koukai@general.hokudai.ac.jp

UCカードのホームページ(<http://www2.uccard.co.jp/join/college/hokudai.html>)からも  
入会申込書を請求できます。(ホームページ下部の「資料請求」からお進み下さい。)

## お問合せ先

カード会社のサービス  
カード発行に関する  
お問合せ先

UCカードコミュニケーションセンター

電話:(東京)03-5531-6200

(大阪)06-6226-0981

その他のお問合せ先

北海道大学連合同窓会事務局

(北海道大学総務部広報課)

(詳細につきましては、申込書をご覧いただくかご照会下さい。)